



まつもと・あきこ

1990年東京医科歯科大学医学部医学科卒業。医学部附属病院等の神経内科で臨床と研究に従事し、1997年同大学院博士課程修了。2001年宇宙開発事業団(NASDA)に入社。2005年米国ライト州立大学大学院で航空宇宙医学修士号取得、JAXAフライトサーजनとして数々の宇宙ミッションをサポート。2016年より東京医科歯科大学客員教授に就任。

卒業生の今

活躍する医科歯科人

宇宙ミッションの一員として 飛行士の健康を守る

宇宙航空研究開発機構(JAXA)
有人宇宙ミッション本部
フライトサーजन
東京医科歯科大学客員教授

松本暁子氏

Akiko Matsumoto

フライトサーजनとは、宇宙

飛行士の健康を守る専門医。JAXAの松本暁子氏は、山崎直子飛行士をはじめ、若田光一飛行士、油井亀美也飛行士のクルーサーजनを務めてきた。この専門医は、世界でも数十人しかいない。松本氏は、その役割を説明する。

「宇宙飛行士は実際に宇宙に飛びたつ2、3年前にミッションへの参加を告げられますが、クルーサーजनもその直後から専任に任命されます。そこから宇宙空間でミッションを果たして帰還するまでの数年にわたり医学的にサポートします」

主な任務は、宇宙

飛行士の健康管理や定期的な医学検査および国際調整だ。宇宙での船外活動を想定した潜水訓練や雪山でのサバイバル訓練など、特殊訓練の医学的ケアも行う。そうして飛行士が宇宙へ飛びたつと、地上から医学管理を行う。ミッションコントロールでのモニターのほか、クルーサーजनと軌道上飛行士のプライベート医学面談も実



施して心身両面で支援する。

「最近では宇宙飛行士は、国際宇宙ステーション(ISS)に長期間滞することになり、無重力空間における骨や筋肉への影響や放射線の問題などが大きくなりました。万が一の疾病発生を想定した遠隔医療の準備もしています」

そう語る松本氏だが、遡ると、元々宇宙分野に関心があったわけではないという。

「親戚がNASDAの職員として働いているので何気なくホームページを閲覧していたとき、フライトサーजनの募集告知が目に入りました。そんな仕事があることも知らなかったのですが、宇宙空間では人体はどのようになるのかという単純な好奇心から応募したところ、試験に合格したのです」と笑顔を見せる。

世界の宇宙医学関係者の間では、有人火星探索や民間人の宇宙旅行を視野に入れた宇宙医学プロジェクトが進行中。松本氏もそのひとりとして、数万光年先を見据えた宇宙規模の仕事をしている。

B

宇宙航空研究開発機構(JAXA) 東京事務所 東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ

【JAXA】

宇宙科学研究所(ISAS)、航空宇宙技術研究所(NAL)、宇宙開発事業団(NASDA)の3機関が統合して2003年に設立。日本政府全体での宇宙開発利用を技術で支える中核の実施機関と位置づけられ、同分野の基礎研究から開発利用にいたるまで一貫して行っている。

